

NO.	項目	ご意見・ご要望・ご感想	回答
基本目標1 地域で子育てを支援するまちづくり			
1	1-3-1子ども会館	子ども会館をもっと魅力的な施設にしてほしい。たとえば駐車場を整備したり、休日に使用できたり、家ではできないような体を使って思い切り遊べるような施設になれば良いと思う。その反面、子どもと親子の居場所としては、小学校の長期休み中は乳幼児連れでは使いづらい。(同様な意見 他4件)	子ども会館の駐車場設置については、現在の設置場所等を考慮すると、厳しい課題であると認識しております。 小学校長期休校中の乳幼児連れの利用については、乳幼児親子、小学生ともに利用できるよう運用を検討してまいります。
2		梶原子ども会館について、子どもの家の機能が無くなったなら近隣に深沢子育て支援センターもあるので廃止しても良いのではないかと。残す意味は何か。 (同様な意見 他1件)	梶原子ども会館は、利用者が少なかったことや、近くに深沢子ども会館があることから廃止を検討してきましたが、地域の方々や子育て支援団体と意見交換を重ね、従来の子ども会館にとられたい、新たな子どもの居場所、子育て支援施設として存続させることとし、平成24年7月から子育て支援団体と協働事業を開始しています。
3	1-3-1子ども会館 4-1-5公園・緑地の整備促進	学校から帰宅後遊びに行ける場所が遠かったり、整備されていなかったり、少なかったりする。子どもが思いきり体を動かせる場所が少ない。小中学生の放課後の遊び場をもう少し充実させてほしい。 (同様な意見 他1件)	放課後の子どもの居場所については、きらきらプランの中でも重点取組みに位置付けています。利用者の視点から既存の公園や子ども会館等の施設を活用して、使いやすい仕組みやきっかけとなる仕掛け作りに取り組んでまいります。
4	1-3-2子育て支援センターの充実	子育て支援センターの面積が狭い。特に鎌倉地域では、平成23年度の利用数が大船の4/5の人数利用があったのに、面積は1/3しかない。また、大型遊具がないので自宅と違った環境を生かしていない。 (同様な意見 他1件)	鎌倉子育て支援センターが狭いことは、担当課としても認識しているところです。対応策として、同じ福祉センター内にあるプレイルームを週1回借用していますが、これ以上日数を増やすのは困難な状況にあります。 大型遊具の導入については、利用者及び指定管理者の意見を聴取しながら検討を進めます。
5		子育て支援センターについて、土日の開館日をもっと増やしてほしい。	各センターの利用状況を見ながら、指定管理者と開館の必要性を検討してまいります。
6		子育て支援センターでのイベントを行ってほしい。その際の申込み方法は「往復はがき」のほかにインターネットからも申し込めるようにしてほしい。	現在、各センターとも様々なイベントを開催しています。事前申し込みが必要なものについては、来所時にお声掛けいただくか、電話受け付けにより対応しています。

基本目標1 地域で子育てを支援するまちづくり			
7	1-3-6ファミリーサポートセンター事業	ファミリーサポートについて、もっと制度周知に努めていただきたい。	広報かまくらへの案内記事掲載および、市の窓口やメディアスポットにパンフレットを設置するなどして制度の周知に努めています。また、支援会員の登録講習会については、広報かまくらへの掲載のほか、広報板(掲示板)にも掲示をしています。今後は、子育て世代の多く集まる場所へパンフレットを設置するなどして、さらなる制度周知を進めていきます。
8	1-4保育サービスの充実	休日保育、病後児保育、一時預かり事業について、平成21年度からほとんど変わっていないため、もっと充実させてほしい。 (一時預かりの充実についての同様な意見 他5件) (病後児保育の充実についての同様な意見 他1件)	休日保育の実施に当たっては、施設の保育体制の確保として保育士の確保及び受け入れ事務が発生しますが、現在この体制が整備されている山崎保育園でのみ実施している状況です。他園での実施体制が整備されておらず、今後の拡充等については山崎保育園での受け入れ状況を確認しながら検討してまいります。 病後児保育施設数の拡大については、利用者数及びキャンセル数から考えられる需用が、現在の施設で提供できるサービス量であること、また運営に多額の経費が必要なことから、具体的な検討は行っておりません。 一時預かり事業は、現在公立園としては深沢・腰越の2園で行っていますが、将来的に材木座保育園と稲瀬川保育園の統合・移転を予定しており、統合後の園においても、一時預かり事業を実施することを想定しています。また、幼稚園など保育所以外の場所での事業実施についても検討していきたいと考えております。
9		年々定員数が増加していることはとても評価できる。今後子育てしながら働きたい女性がさらに増えると思うので更なる充実をお願いしたい。 平成25年度の目標値も知りたかった。 (同様な意見 他1件)	近年の長引く不況や昨今の就労形態の変化などに伴い、保育ニーズはますます増加しております。本市としましては、認可保育所の定員増を図るなど、待機児童対策を進めているところですが、今後も解消に向けてさらに受け入れ枠を増やさなければならない状況にあります。 平成25年度の目標値設定はありませんが、認可保育所の分園設置、認定こども園の新設、小規模認可保育所の新設、認定こども園の定員増により平成25年4月においては、2,054人の定員になる予定です。さらに、認可保育所の分園設置を神奈川県と現在協議しており、13名の定員増を計画しています。
10	1-4-1通常保育	北鎌倉周辺に保育園が無く、また鎌倉地域には材木座と稲瀬川保育園位しかなく、とても残念。	北鎌倉周辺にはご指摘のとおり保育園はございませんが、平成25年4月に常楽寺バス停の近くに、2歳児までを対象とした小規模の認可保育所が45名定員で開所する予定です。 鎌倉地域は、用地の問題等により材木座保育園、稲瀬川保育園、富士愛育園の3園のみとなっております。現在、旧鈴木邸・今井邸の活用について検討を行っています。
11		待機児童42名の年齢別内訳はどのようになっているのか。また、その状況を見て何か解決策を検討しているのか。	待機児童42名の年齢別内訳は0歳0人、1歳22人、2歳16人、3歳3人、4歳1人、5歳0人です。 待機児童の解消のため、公立、私立保育園全園で定員を超えた児童の弾力的な受け入れを行っています。 今後とも保育需要に対応する取り組みが必要であり、認定こども園の新設による定員増、既存施設の定員増、家庭的保育制度(保育ママ)の活用などに取り組んでいきたいと考えています。
12	1-4-9統合保育(障害児保育) 1-4-14障害児のための子どもの家の受入れ	障害のある子どもも保育施設で見ただけのよう、門扉を広くしていただき、できれば就学してからも普通の子と同様に親が仕事を続ける環境作りを検討してほしい。障害を持つ子の親も、就労のチャンスが作れればと思う。	民間保育所に入所したお子さんで、特別児童扶養手当を受給している、又は療育手帳及び身体障害者手帳を持っている、鎌倉市発達支援委員会で認定を受けた場合には、施設の申請に基づき市から補助金を交付し、障害のあるお子さんであっても必要な保育を受けることができるよう保育環境の整備に取り組んでいます。 また、子どもの家(学童保育)では、障害のある子が入所を希望されている場合、入所前に保護者との面談をしております。 その中で、お子さんの安全面等を考慮したうえで、子どもの家での生活が可能と判断した場合には、できる限り受け入れを行っております。

基本目標1 地域で子育てを支援するまちづくり			
13	1-4-13子どもの家	なぜ鎌倉は小学校の空き教室を利用して学童保育を行わないのか。今泉小学校区についても学校内の空き教室を利用することが望ましいと思う。学校から出るようなら徒歩5分以内の場所が理想である。 (同様な意見 他1件)	少人数学級や特別支援学級などにより空き教室の利用が難しい小学校もありますが、小学校から距離のある子どもの家は、入所児童の来所時の安全を考えると課題がありますので、今後教育委員会と協議をしていきます。
14		たまに用事がある、夕方帰宅が遅くなることもあるが、その際に学童保育で小学生の子どもを預かってもらえないか。通常月ごとの契約と聞いているが、一日時間でいくらという利用ができれば良いと思う。	子どもの家(学童保育)は、保護者の仕事や疾病などの事情によって、学校から帰宅して世話をする人がいない子どもが利用することができます。 子どもが、放課後に家庭的な生活ができるような場所を提供することを目的としているため、基本的に長期的な監護が必要な方にご利用いただいております。 市内の多くの子どもの家では子ども会館を併設しており、放課後、児童が一度帰宅してからなら夕方5時まで遊ぶことができます。子ども会館の利用は登録料がかかりませんので、一時的な利用であれば、子ども会館をご利用ください。
15	1-6-3小児医療費助成	医療費助成を中学生くらいまで所得制限なしにしてほしい。	平成21年10月1日から、通院医療費の助成を、従来の小学3年までから小学6年までに所得制限付で拡大しました。 今後も県や近隣各市の動向をふまえ、また、財政状況等に配慮しながら医療費助成制度に対する施策に取り組んでいく必要があると考えています。

基本目標2 子どもと親が健康に暮らせるまちづくり			
16	安心して産み育てられる医療体制の充実	鎌倉市には、相談窓口はあっても統合された医療・療育機関がない。就学から成人まで通して障がいの大小に係わらず、相談・療育できる機関が必要。	鎌倉市では平成18年に「鎌倉市発達支援システムネットワーク」を立ち上げ、特別な支援を必要とする子どもにライフステージに応じた一貫した継続的な支援を行うための体制を整備してきました。ひとつの機関で就学から成人までの支援を行うことは困難ですが、保健・医療・福祉・教育など複数の機関が関わっている場合には、横の連携をはかり、また、ライフステージが切り替わる場合には次の機関への引き継がれていくよう縦の連携を図っています。引き続きライフステージに応じた一貫した継続的な支援を行うことができるよう取り組んでいきます。
17	2-1-2妊婦及び乳幼児健康診査	6か月健診の時に「身長・体重」の計測が無かったのが残念。また、内容も話ばかりだったので、交流など行える内容にしてほしい。	鎌倉市では、6、7か月児健診は実施していませんが、6か月児育児教室(まんま♡る〜ぷ)を市内4カ所で開催しており、この教室で離乳食、運動発達、育児のお話の他、絵本の読み聞かせ、身長・体重の計測、保護者同士の交流の場を設けています。今回、ご参加いただいたのは、まんま♡る〜ぷ以外のものと思われるのですが、市が実施する事業、催し等について、保護者の方のニーズでご参加いただけるよう、わかりやすいお知らせをすることに心がけていきます。
18	2-2-1学校における食育の推進	小学校での給食がとても充実しており評価しているが、中学校において給食制度がないことが不満である。給食センターの設置をぜひ検討していただきたい。	中学校ではミルク給食を実施しています。小学校のような完全給食については現在導入方法を検討しています。
19	2-4安心して生み育てられる医療体制の充実	鎌倉市内で出産可能な病院は2院のみなので、産科を扱う病院を増やし、若い世代が安心して暮らせるようにしてほしい。	市内での出産を希望する方の全てが、市内で出産でき、さらに産院の選択ができる環境が整っていることが、若い世代が安心して暮らしていくためには必要であると考えています。平成25年度中に市内に3施設目の産院(民間の産院)が開設される予定です。このことにより、一層、市内での出産場所が確保され、出産する産院の選択肢が増えることになると考えています。今後も、若い世代が安心して暮らせるよう、市内の出産環境改善に向けて関係者と協議検討していきます。
20		夜間の小児救急病院や受け入れ施設を市内に作ってほしい。	小児救急体制の充実を図るためには小児科医の確保が不可欠ですが、全国的に小児科医師が不足している状況です。この問題は、国レベルでの課題であるため、国に対して医療体制の改善について、働きかけていきます。また市としても、今後とも小児救急医療の充実や、休日夜間急患診療所の体制整備について、関係団体等と協議、検討していきます。
21	2-4-4産科診療所運営への支援	ティアラかまくらへの運営支援を引き続きお願いしたい。(同様な意見他2件)	ティアラかまくらは、市内の出産施設減少に伴い、市内で安心して出産できる施設がほしいという市民要望に応えるべく、市と鎌倉市医師会が協議、検討した結果、開設した鎌倉市医師会立の産院です。市の財政状況も大変厳しい状況ではありますが、市としても、これからも、ティアラかまくらが、より市民の方に親しまれ、ご利用いただける施設を目指して鎌倉市医師会とともに考えると、必要な運営支援を行っていきます。
22		ティアラかまくらでの出産後のケアや母乳外来を充実させてほしい。	ティアラかまくらは、出産施設という位置づけだけではなく、子育て支援の一環として開設した産院です。今後とも、出産前後を中心に、ご利用いただけるティアラかまくらならではの催し、教室等の充実に向けて鎌倉市医師会と協議、検討していきます。

基本目標3 子どもが心身ともに健やかに学び育つまちづくり			
23	3-2-12安全で快適な学校教育環境の整備	小中学校の設備が古く、なかなか改善されていないと思う。近隣の市と比べても劣っていると感じるがいかがか。	小・中学校の整備(机・椅子・教材など)について計画的な更新が必要であると認識しています。児童・生徒用物品類を優先し更新していきたいと考えています。近隣市との比較は行っておりませんが、日頃より学習環境の向上に努め、施設・設備の機能を維持し、安全・安心を確保するため、学校施設において各種点検を実施し、優先度に応じて、計画的に改修、修繕を行っています。
24		西鎌倉小学校のトイレの改善をお願いしたい。	西鎌倉小学校のトイレについては、平成26年度に北棟トイレの改修工事を行う予定となっています。なお、学校のトイレについては、普段から清掃及び点検を実施し、問題のある個所については修繕等を行い、改善を図っていきます。
25	3-2-24 ようこそ先達事業	事業を知らなかった。他の学校でも実施していただき、地域の人も参加できるようにしてほしい。	本事業の趣旨は、鎌倉ゆかりの文化人・芸術家の方のご協力を仰ぎ、本物の芸術に触れたり上質な文化に向き合う機会が少なくなってきた次世代を担う子ども達に、感動を伝えるものです。また、実施校については学校の協力により決定しており、地域の方については学校側の工夫で参加していただいております。なお、本事業は平成23年度から実施しているもので、ご存じない方も多いかと思いますが、今後も多くの子ども達に感動を伝えられるよう、学校と連携して実施をしていきます。
26	3-3-8子ども会館・子どもの家における健全育成	子ども会館で遊んでいると、子どものけんかやもめごとの際に職員がすぐに介入しているのを見かける。もう少し子どもに任せてみて良いのではないかと思う。子ども同士の係わりから知恵を出し合ってルールなどが生まれることもあるのではないか。	子ども同士のけんかなどで大きな事故につながる可能性もありますので、子ども同士のやりとりを見ながら途中で仲裁に入っています。確かに、子ども同士の係わりから新しい知恵やルールが生まれてくることもあると思います。現在、梶原子ども会館で行っている協働事業は、子どもの意見を取り入れ、子どもがやりたいことを実現できる施設とし、運営に子どもが参加できるような居場所づくりを目指したいと考えています。
27	3-3-9学校開放の推進	体育館などもっと開放してほしい。	現在、市立小中学校全25校の体育館については、市民スポーツの振興を図るため、学校活動に支障のない範囲で登録団体に開放しています。ご利用にあたっては、鎌倉市立小学校及び中学校の体育施設の開放に関する規則に基づき、一定の条件のもとに団体登録をしていただく必要があります。また、開放時間につきましては、ほとんどの小中学校が住宅地に隣接していることから、早朝及び深夜等、開放時間帯の拡大は周辺の住環境と考え併せると難しいと考えています。
28	3-3-11小学生ジュニアリーダーの育成	集団行動、野外活動を通してリーダーを育てるとしているが、市内にそのような場所がない。キャンプや野外炊飯など青少年活動ができる場が欲しい。またキャンプの回数も増やしてほしい。(同様な意見 他2件)	現在、鎌倉市青少年指導員連絡協議会に委託して、年1回1泊2日の「子どもキャンプ」を開催しています。皆様に安全に楽しんでいただけるよう、当日までに主催者側が研修を重ねてキャンプを開催していることから、回数を増やすことは、難しい現状です。その他の青少年活動として、平成24年度には、市内の青少年育成団体と共催で、小学生を対象に災害時に役立つ宿泊訓練を鎌倉青少年会館にて実施しました。今後も、同様のイベントを実施できるよう検討したいと考えております。鎌倉青少年会館の野外炊事場(無料)の使用方法は、団体、個人登録後に電話などで予約申し込みをし、使用日の3日前までに使用申請書を提出していただきます。市民の皆様のご利用をお待ちしています。
29	—	家庭教育をする親へのサポートが必要。親自身を教育する「親学」というものを聞いたことがあり、親への教育など行ってほしい。	児童虐待未然防止の観点からも、子育てスキルを高めるための「講座」実施が必要と考えています。平成24年度については、「すこやか子育て応援講座」を実施しました。



基本目標4 子どもと子育てにやさしいまちづくり			
30	4-1-1歩道の整備	大船警察前の歩道くらいの広さがあるとベビーカーを使用できるが、溝のふたがガタガタ揺れ、段差が多いので歩きにくい。	市道につきましては、歩道の横断歩道部、交差点巻き込み部を対象に歩道段差改修や側溝蓋を平坦で歩きやすい構造にするなど、歩行空間の確保に取り組んでいきます。 また、国道、県道の整備につきましては、道路管理者である神奈川県が整備可能な箇所から順次、歩道の段差解消等の整備を行っています。
31	4-1-1歩道の整備 4-1-2生活道路の整備促進	車、自転車、歩行者が安全に通行できるようガードレールの設置など、道路の整備をしてほしい。 (同様な意見 他2件)	市内の道路は、幅員が狭く歩道やガードレールの設置など歩行空間の確保が難しい路線が多いのが現状です。歩道を設置したり広げるには、沿線私有地の買収などを行う必要があり、早期に対応することが困難な状況です。 そこで、路側のカラー化や交通規制等の工夫をしながら既存の道路空間の活用を図るなど可能な限り歩行空間の創出に努めています。
32	4-1-5公園・緑地の整備促進	居場所の整備とともに施設の増加を希望します。(同様な意見 他1件)	市の財政状況が厳しく、施設の増設は困難なため、既存の施設等の使用方法を整備するなどして、より利用しやすい環境を整えるとともに、各地域で行われるイベントや講座など情報提供してまいります。
33		公園が少ないので増やしてほしい。(同様な意見 他9件)	現在、鎌倉市では樹林地を散策できる鎌倉広町緑地や(仮称)山崎・台峯緑地、また、多目的広場や複合遊具、防災機能を有した岩瀬下関防災公園の整備を進めています。 また、既存の公園につきましては利用者のご意見を聞きながら、遊具を更新する等再整備を行い、魅力ある公園づくりに努めてまいります。 市内に公園が不足している地域があることは承知しております。 新たに公園を整備するには、用地の確保、周辺住民の理解等多くの課題を解決する必要がありますが、借地型公園を検討するなどして、公園の新設に努めてまいります。 また、市では、かまくら子育て支援グループ懇談会と、野村総研跡地や深沢多目的広場の一日冒険遊び場を年間12回程度開催しています。「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、木工、ロープ遊び、昔遊びなど開催日ごと子どもたちが自然の中でのびのびと遊ぶイベントを開催しています。申し込み不要ですので、ぜひ参加してみてください。詳しくはかまくら子育てメディアスポットのホームページをご覧ください。 <a href="http://homepage3.nifty.com/kmspot/">http://homepage3.nifty.com/kmspot/</a>
34		玉縄・岡本地域の子どもの遊び場が少ない。多くの子どもがめいっばい遊べる場所が欲しい。フラワーセンターが公園になればいいのと思うことがある。	神奈川県立フラワーセンター大船植物園は神奈川県の用地となっているため、その利活用についてはお答えする立場にないことをご理解ください。ご意見として受け止めさせていただきます。 玉縄・岡本地域は鎌倉市域でも比較的公園が多いと認識しておりますが、今後様々な年齢層の方々が安心して遊べるような場所の整備につきましては、用地の確保が困難な状況にありますが実現に向けて努めてまいります。
35		鎌倉に点在する公園には木陰がなく、夏場など困っている。植樹などで木陰の整備をしていただきたい。	市内の公園は面積の小さな公園が多く、木陰ができるような高木を植栽できる場所の確保が難しい状況です。また、高木の植栽より広場などのオープンスペースを希望する方など様々なご要望があります。 ある程度の大きさがあり、スペースが確保できる公園ではパーゴラ(日よけ)を設置するなど、対策を考えてまいりたいと思います。
36		子どもたちが日常的に鉄棒など練習できるように、ぜひ鉄棒・うんていなどの設置をお願いしたい。かつては小学校がその役割をしていたが、現在は出入りが自由にできないので。	公園施設の設置については、鉄棒やうんてい以外にもすべり台やブランコなどの遊具、ベンチやテーブルなどの休養施設など、様々なご要望をいただいております。これらの要望については順次実現するよう努めております。具体的なご要望があれば、公園課までご一報ください。
37		公園の数は増えているが、ボール遊びや自転車の利用に規制があるため、子どもたちが思いきり遊べない。自宅近くでボール遊び等ができる場所を作ってほしい。	公園はお年寄りから小さな子どもまで様々な年齢層の方々が利用され、利用者の安全を確保するためにも、ボール遊びについては一定の規制が必要であることをご理解ください。ボール遊びについては町内会で近隣にお住まいの方と話し合いを持ち、公園ごとにルールを定め、利用している公園もあります。 また、ボール遊びが出来る広さのある広場の整備につきましては、用地の確保が困難な状況にありますが、実現に向けて努めてまいります。

基本目標4 子どもと子育てにやさしいまちづくり			
38		ハイキングコースの放射線量の測定をお願いしたい。またコース中に自生している木の実なども子どもが口に入れることがあるので測定をお願いしたい。	観光商工課で紹介している天園、葛原岡・大仏、祇園山の3つのハイキングコースについては、平成23年の10月及び11月に放射能測定を実施し、市ホームページにて結果を公表しております。各コースの測定結果は、天園ハイキングコースと葛原岡・大仏ハイキングコースが0.039 $\mu$ Sv(マイクロシーベルト)/h、祇園山ハイキングコースが0.044 $\mu$ Sv/hとなっており、子ども関連施設(学校、保育園など)における市の対応の目安である0.19 $\mu$ Sv(マイクロシーベルト)/hを下回っているため、当課では安心してご利用していただくと判断しております。また、木の実などの測定は、測定可能な量の問題から、現状では困難です。
39	4-2安全・安心まちづくりの推進	安全情報メールの不審者情報の配信が少し遅く感じる。	不審者情報のメール配信は、教育委員会や警察関係機関を通じ情報提供があった事案について行っています。そのため、事案発生から情報提供までの時間的差異が生じています。特に、学校等から発信された情報については、児童・生徒の二次的被害防止のため、教育委員会が被害者の保護者と協議の上発信していますので、時間を要すこととなります(教育委員会では、周辺校に対しても事案発生の連絡を行っています)。メール配信につきましては、今後も適格且つ可能な限り早急な対応に努めていきます。ご理解のほどよろしくお願いいたします。
40		市内の繁華街での現在の状況や対応を知りたい。	子どもの見守り活動として、市立中学校の教員・市民と共に、「街頭指導」を実施しております。街頭指導においては、未成年が集まりやすいコンビニ・カラオケ等を見回りし、現状把握・注意に努めています。23年度は街頭指導を計13回実施しました。
41	4-2-6防犯教室の開催	防犯教育が大切であると考え、防犯教室は年数回実施してほしい。また、カリフォルニア州のCAPプログラムなども取り入れ、学校や幼稚園と連携し、防犯で進んだまちづくりをしてはどうか。(同様な意見他1件)	市では私立施設を含む保育園・幼稚園他子ども関連施設、小中学校及び高等学校等に対し、防犯訓練や教室の開催を積極的に呼び掛けています。これらの防犯訓練・教室は、市の防犯アドバイザー(元警察官)が、鎌倉・大船警察署や県くらし安全指導員等関係機関と連携し、主催者(施設)と協議の上、対象者の年齢階層別に応じた内容や犯罪等の認知状況を考慮した内容にて行っています。また、中学や高校の生徒が、子ども関連施設での訓練・教室や街頭での防犯活動に参加することで、防犯意識の高揚等を促すことも推奨しています。今後も、各施設に対し防犯教室・訓練の開催を呼びかけ、その実施や内容の充実に努めていきます。
42	4-2-16スクールゾーンの安全対策	通学路の危険箇所に対する早急な改善をお願いしたい。	通学路の安全対策については、市・県の道路管理者、交通管理者、教育関係者、保護者等が協議、調整を行う組織として、「鎌倉市スクールゾーン等交通安全対策協議会」を設置し、取り組んでいます。協議会では、各小中学校からの通学路等の交通安全対策の要望について、協議を行い、対策方針を整理した上で各校に回答するとともに、所管する関係機関等においては、それぞれ対策の実施に向けて、毎年、取り組んでいるところです。

基本目標4 子どもと子育てにやさしいまちづくり			
43	4-2-19子ども関連施設等における放射線量等の測定	使用する食材の産地などについても気になっており、神奈川県の水やおやつなど加工品の原材料の産地などは安全なのか。気にし過ぎ、細かすぎと思うが子どもたちが飲食するものには慎重になってしまう。	学校給食の食材は遺伝子組み換えでない食品、食品添加物を多く使用していない食品を使用することとしています。また放射能についてはできるだけ影響のない食品を使用することとしています。水については神奈川県が定期的に測定をして、安全を確認しています。
44		空間放射線量のホームページでの掲載について、探しにくいものがあるので、分かりやすくしてほしい。	鎌倉市トップページ>災害関連情報>放射能に関する情報>放射線量と放射能濃度 1.鎌倉市内の放射線量等の測定値について、の順で表示されるページの子ども関連施設内に、給食食材に関する「市立・私立保育園、あおぞら園、幼稚園の給食食材等の放射性物質濃度の測定について」並びに、空間放射線量等に関する「市立・私立保育園、あおぞら園、幼稚園、子ども会館等の空間放射線量の測定値について」及び「鎌倉市立保育園と鎌倉市児童発達支援センターあおぞら園における放射線量等の測定値について」が並列して表示されております。
45		給食食材等の放射性物質濃度の測定について、全品目の測定をお願いしたい。また、園で育てた野菜や芋ほり、みかん狩りなどの行事の際にも測定ができることを各園に周知していただきたい。 使用する食材の産地などについても気になっており、神奈川県の水やおやつなど加工品の原材料の産地などは安全なのか。気にし過ぎ、細かすぎと思うが子どもたちが飲食するものには慎重になってしまう。(同様な意見 他2件)	給食食材等の放射性物質濃度の測定は24年6月から、1日、2品目の検査をしており、安全を確認しています。保育園(公立、私立)、あおぞら園、幼稚園で提供する食材の検査が可能です。水は、神奈川県が定期的に測定をし、安全を確認しています。給食食材は、できるだけ国産で、安全なものを使用するようにしています。魚は海外産を使用することにしていましたが、国産魚の放射性物質濃度の測定を実施しながら使用しています。
46		放射線量や放射性物質濃度の測定について、もっと細かな測定や民間施設への測定の指導などをお願いしたい。また、ホームページへの掲載も分かりやすく、検索しやすくしてほしい。(同様な意見 他3件)	現在市では、「市立保育園」「あおぞら園」「子ども会館・子どもの家」等での放射線量の測定を行うとともに、給食食材等の放射性物質濃度の測定を行い結果をホームページで公表しています。その他の施設(私立保育園、幼稚園等)に関しては希望する施設に空間放射線量の簡易測定器の貸し出しを行い、測定結果をホームページに掲載しています。引き続き、簡易測定器の貸し出しについて広報してまいります。なお、ホームページの見やすさ、検索しやすさについては、ご意見を基に改善を図ってまいります。
47	4-3子どもや親子の居場所づくりの推進	夏休みの子どもの居場所として、市営プールを整備して駐車場を割安にしてはどうか。	海浜公園水泳プールについては、防災面や施設の老朽化など、検討すべき課題があり、現在、今後の整備方針について検討を進めています。新たにプールを整備することとなった場合には、駐車場料金も含めた適正な料金設定について検討します。
48	4-3-5 放課後子ども教室	稲村ガ崎小学校の取り組みはその後どうなっているのか。他の小学校に広まらないのか。	鎌倉市では、平成19年度から学校、地域のご協力のもと、稲村ヶ崎小学校において放課後子ども教室事業を行うとともに「放課後子ども教室運営委員会」において事業実施に伴う課題の整理などを行ってまいりました。平成24年度には5年間の事業実施の中で生じた課題、あるいは事業効果の検証を行うとともに、さらに他の小学校区で実施ができないか検討する上で必要な地域の意向調査を行いました。今後は調査結果を踏まえ、他の小学校区でも事業が行えないか、事業内容、運営方法等も含め、学校、地域の方々とも十分協議をしていきたいと考えております。
49	—	若宮大路沿いや海岸沿いなど、津波から子どもの命を守るための防災にもっと力を入れていただきたい。	子どものうちから津波防災意識を身につけるため、津波避難訓練や防災講話などあらゆる機会をとらえ津波防災意識の啓発に努めます。ご家庭でも避難場所の確認など日ごろから話し合いをお願いいたします。



基本目標5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を実現できるまちづくり			
50	5-1-2 勤労環境改善への支援	「勤労市民ニュース」は、発行部数を増やせば良いのではないか。	本庁舎、各支所の残部数を確認しながら、部数切れにならないよう発行していきます。また、鎌倉市のホームページから過去の「勤労市民ニュース」を参照していただけるので、そちらの周知も図っていきます。
51	5-2 仕事と子育ての両立の推進	幼稚園の延長保育のように、小学校でも校庭や一部の教室を開放し、地域のボランティア等に協力してもらって預かり等を実施できればよいのではないか。	教育施設である小学校を、お子さんをお預かりするための生活施設として開放するためには、いくつもの課題を解決しなければならず、時間がかかると思われます。現在、文部科学省と厚生労働省では、放課後の安全で健やかな居場所を確保するため、「放課後子どもプラン」を推進しており、鎌倉市でもこの施策に則り、すべての小学校区に「こどもの家」を設置しています。保護者の就労などにより、帰宅しても世話をする大人がいない児童のために、放課後18時まで、家庭的な指導を行っております。
基本目標6 専門的な支援を利用しやすいまちづくり			
52	6-3-205 歳児すこやか相談	実際に書類に記入してみても、あまりにも質問内容が広く記入に困った。記入の仕方によって解釈が違ってしまふような記載・質問であったため、相談の希望有無は別としても、もう少し細かな聞き方が良いと思う。	5歳児すこやか相談は、5歳という年齢が集団生活を通して社会性が大きく成長する時期であることから、お子さんの成長の振り返りの機会とするとともに、保護者の方のご相談の機会などを目的に実施しています。相談票については、目的に沿って記載していただけるような項目としています。記載内容だけで判断するのではなく、専門のスタッフがお子さんの園での様子を見せていただいたうえで、相談のご希望がある場合には、保護者の方と直接お話しさせていただいています。ご意見については、今後の参考とさせていただきます。
その他の意見・要望など			
53	—	小学校や保育施設で、電磁波の軽減策は講じているか。	現在、学校施設では、電磁波の軽減対策は講じておりません。なお、平成22年に西鎌倉小学校と玉縄小学校で、学校敷地上空を通過する送電線直下の電磁波を測定したところ、最大数値が0.08マイクロテスラという計測結果となりました。また、携帯電話基地局についても、学校敷地内への設置を認めておりません。また、公立保育所の園舎設備では電磁波の軽減のための対策はとっていませんが、公立保育所の近隣に携帯電話の基地局を設置する場合は、市の条例に基づき事業者から説明があるので、その内容を事前に保護者に知らせ、説明等を行っています。
54		ハイキングコースについて、道が険しく分かりにくい。また草もぼうぼうであるため、整備してほしい。	観光商工課で紹介している天園、葛原岡・大仏、祇園山の3つのハイキングコースについては、ルート板や案内板、パウチ表記等で歩行者が迷わず歩きやすいよう努めています。また、年8回の定期清掃と安全確認を行っているほか、毎月のパトロールと枝払い等の安全確保を行っており、年間を通してコースの整備及び歩行ルートの確保に努めています。
55		海浜プールの営業時期をのばしてほしい。	鎌倉海浜公園水泳プールは平成21年度まで9月15日までの77日間を開場しておりましたが、9月に入ってから利用者数の減少や財政状況等を勘案し、22年度から期間を短縮し、現在は9月7日までになっています。現状では、海浜公園水泳プールの開場期間の延長は難しいと考えていますが、市内11校の市立小中学校のプールを7月21日から8月29日まで開放しておりますのでご利用ください。
56		海浜プールの入場券をいただいてもおむつの取れていない1歳児は利用できません。鎌倉市内のプール券として「こもれび」も利用できるようになりませんか。	こもれび山崎温水プールはPFI事業により、民間の事業者が管理運営を行っているため、市が配布する利用券をご利用にはなれませんが、こもれび山崎温水プールでは未就学児の方は無料でご利用いただけます。

その他の意見・要望など			
57	-	<p>事業の名称が多すぎて、どこがどう違うのか分からない。「ファミリーサポートと子育て支援センター」、「メディアスポット、冒険遊び場、集いの広場、子供会館」、「集いの広場＝子供会館」なのか？</p>	<p>子育て支援センターは0～3歳の乳幼児と保護者を中心に遊べる場です。ファミリーサポートは登録した会員同士が育児等の支援をし合うという仕組みです。例えば、保育園・幼稚園・子どもの家・小学校などの始まる前、終わった後に会員の家でお子さんを預かるといった支援等があります。また、子ども会館は未就学児から中学生までが自由に遊べる施設です。つどいの広場は、子育て支援センターがない地域で0～3歳の乳幼児と保護者が気軽につどい、遊べる場になっています。一日冒険遊び場は、年間12回程度土曜日に深沢多目的広場や野村総合研究所跡地などで開催しているイベントです。「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、木工作、ロープ遊び、昔遊びなど開催日ごと子どもたちが自然の中でのびのびと遊ぶ、をテーマに活動しています。メディアスポットは、市役所本庁舎一階にあり、授乳室やキッズスペースを備えたコーナーです。先輩ママがコンシェルジュとして情報提供なども行っています。様々な事業がありますので、市民の皆様には広報かまくらや、市で無料配布している「かまくら子育てナビきらきら」等で随時ご紹介してまいります。</p>
58	-	<p>きらきら白書が分かりにくい。記載内容など、もっと分かりやすく工夫すべき。(同様な意見 他4件)</p>	<p>きらきら白書ダイジェスト版(B5版:16ページ)は、鎌倉きらきら白書(平成23年度推進状況報告書)(A4版:86ページ)の内容を一部抜粋して掲載しています。市民の皆様気軽にご覧いただけるよう、重点取り組みを中心としたダイジェスト版のかたちにしてはいますが、限られたページ数のなか、表現がわかりにくくなってしまった部分や、具体的な成果等が読み取りづらくなっているところについては、今後冊子の構成や表現を改善するなど、より見やすく、わかりやすくするよう、努めてまいります。</p>
59	-	<p>初めて知る事業が多かった。広報かまくら等で特集を組んでみてはどうか。(同様な意見 他1件)</p>	<p>広報かまくらでは、年に一回程度、子育てに関する特集を組んでいます。たとえば平成24年度は、10月15日号に休日保育、一時預かり、保育ママ、私設保育施設などの保育サービスについての紹介や、鎌倉市次世代育成きらきらプランや、かまくら子育てナビ「きらきら」、子育て支援コンシェルジュの紹介、その他親子で参加するイベントなど、子育てサポートの紹介をしました。また、12月1日号では病後児保育について紹介しています。そのほか、子ども対象のイベントなどは随時、インフォメーション欄の子ども子育てコーナーで紹介していますので、ぜひご覧ください。今後も広報かまくら等の特集で周知するよう努めるとともに、民間の発行する子育て支援情報誌などにも情報を掲載し、発信していく予定です。</p>
60	-	<p>未就園児の子どもが参加できる企画をもっと増やしてほしい。また気楽に参加できるようにしてほしい。(同様な意見 他2件)</p>	<p>市内では、市が行う企画等の他にも主任児童委員や地域の子育て支援団体等が実施している企画が多くあります。広報かまくらやホームページ等でお知らせするとともに、今後も充実に努めます。なお、企画によっては材料の準備等のため事前申し込みが必要なことがあります。申し込み不要のものもありますので、お気軽に参加してください。また一日冒険遊び場は申し込み不要ですので、ご参加ください。</p>
61	-	<p>高齢者による育児支援に期待しています。</p>	<p>意見として受け止めさせていただきます。</p>
62	-	<p>幼稚園への支援はどうなのか。幼稚園設備等の充実は将来の国への投資として重要と考える。</p>	<p>鎌倉市には、23の私立幼稚園があり、市から幼稚園への支援としては、園児が使用する教材教具や安全上必要な園具の購入等費用の補助等があります。新聞報道等にもあるように、平成27年度から子育ての仕組みが大きく変わることになり、市としても今後、幼稚園への支援等については検討してまいりたいと考えております。</p>